

可搬媒体による施設間連携の アンケート調査

東京大学22世紀医療センター 健診情報学講座准教授

奥 真也

日本IHE協会
普及推進委員会

可搬媒体による施設間連携のアンケート調査



はじめに

日本IHE協会
普及推進委員会

昨今、臨床現場においてCD等の可搬媒体を用いた施設間の診療情報の受け渡しが広まりつつある。実際の臨床現場で、メディアが読めない、などの問題が起きているという事実があり、日本IHE協会としてもその現状を把握したい。



期間 平成20年5月10日から6月末

対象 医療機関

日本IHE協会公式サイト <http://www.ihe-j.org/>
上のアンケートフォームからの入力

告知方法 同サイト、2008/4のCyberRad会場における告知、日本放射線技術学会のmailing list

28施設からの有効な回答があった。

病院(大学病院を含む) 20

診療所 3

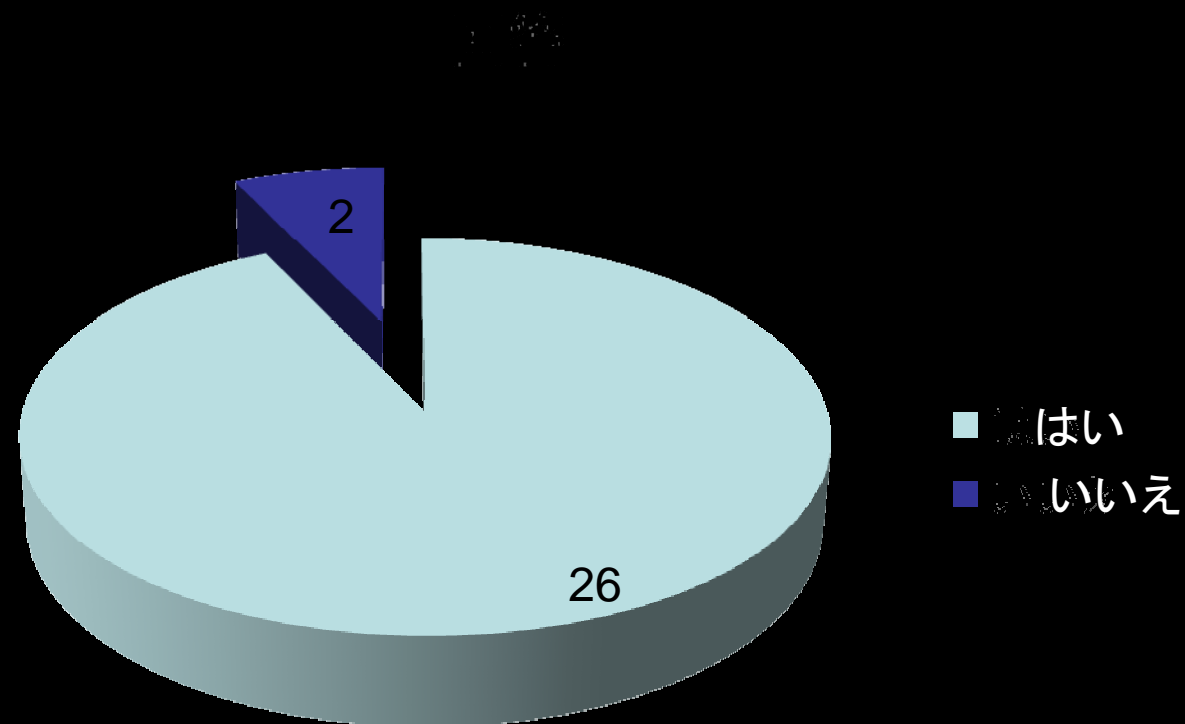
その他 5

設立主体 公立および準公立 15

私立等 11

その他1 不明1

可搬媒体(CD-R, DVD, FD, その他)による画像情報の電子的な提供を行っていますか



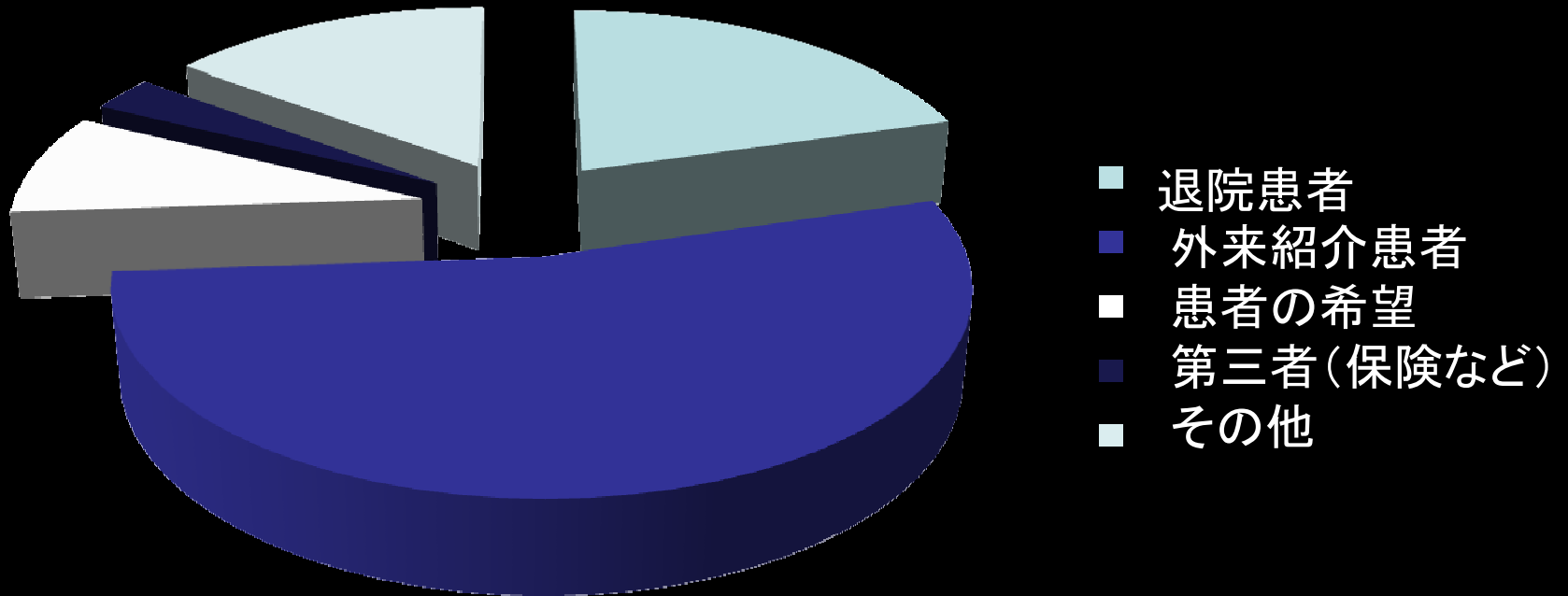
可搬媒体による画像診断提供

行っている 26施設(93%)

行っていない 2施設(7%)

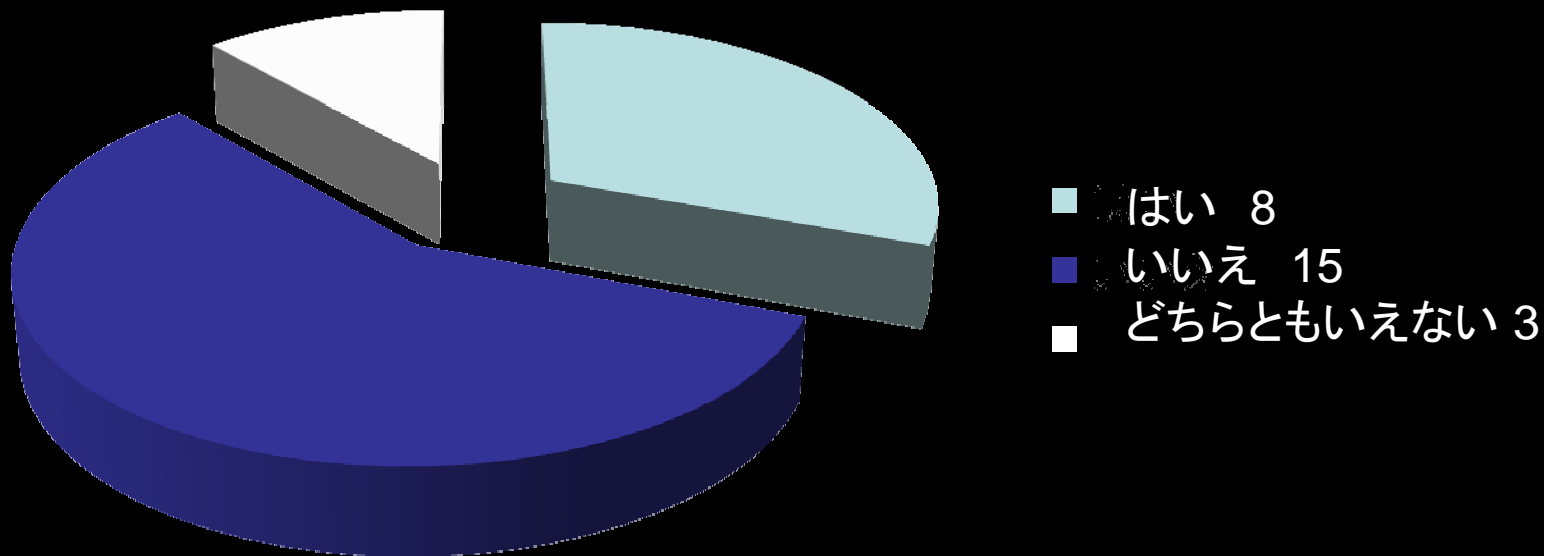


提供する対象者(先)は誰(どこ)ですか
すべての提供数を100としたおよその比率でご
回答下さい

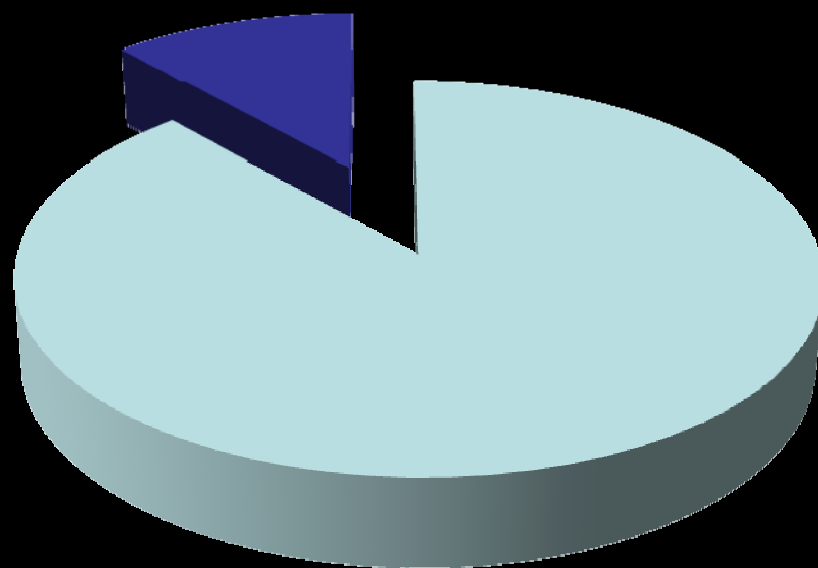


特定の医療圏のみでのやりとりですか

(具体的には、群・市医師会などによる取り決め、特定の医療機関相互における契約関係などによって明確な形で連携を行っている状況を指します)

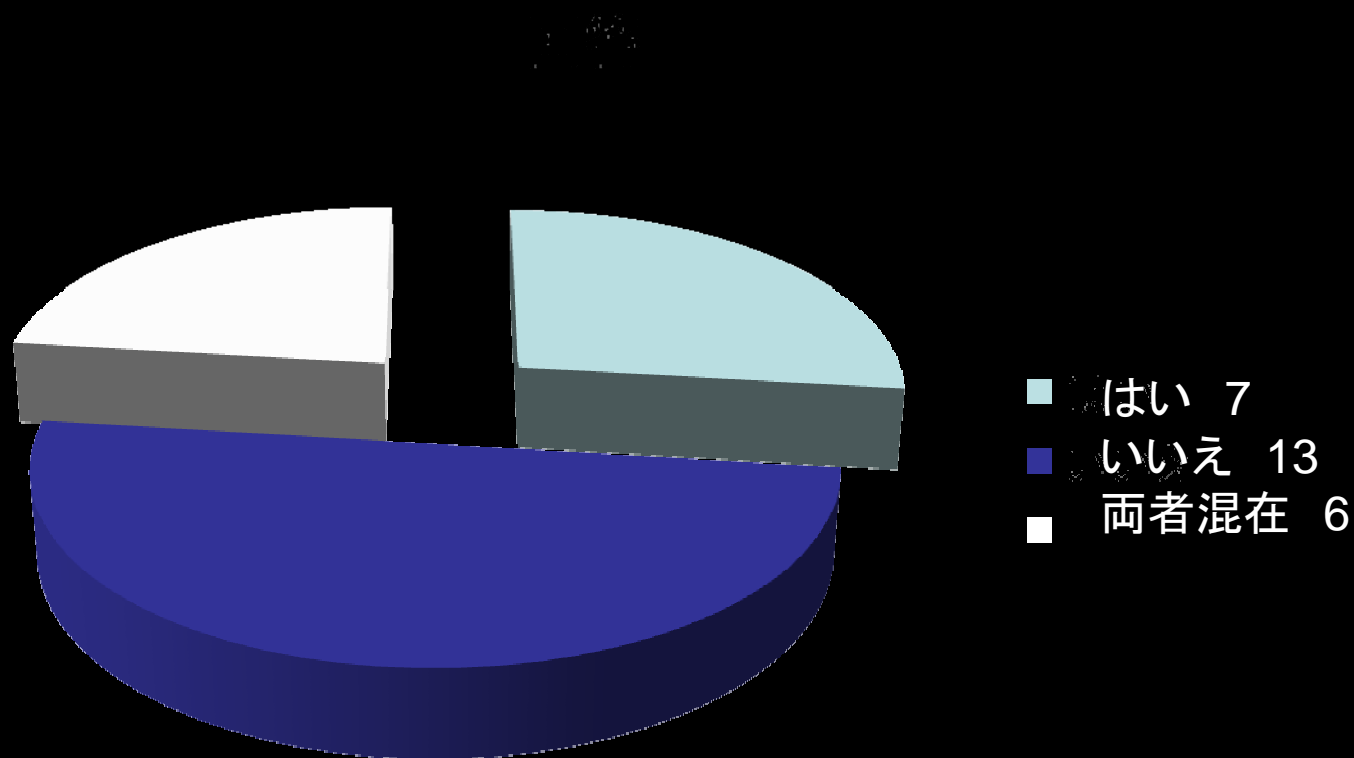


利用施設間で利用可能であることを
確認する必要があると思いますか

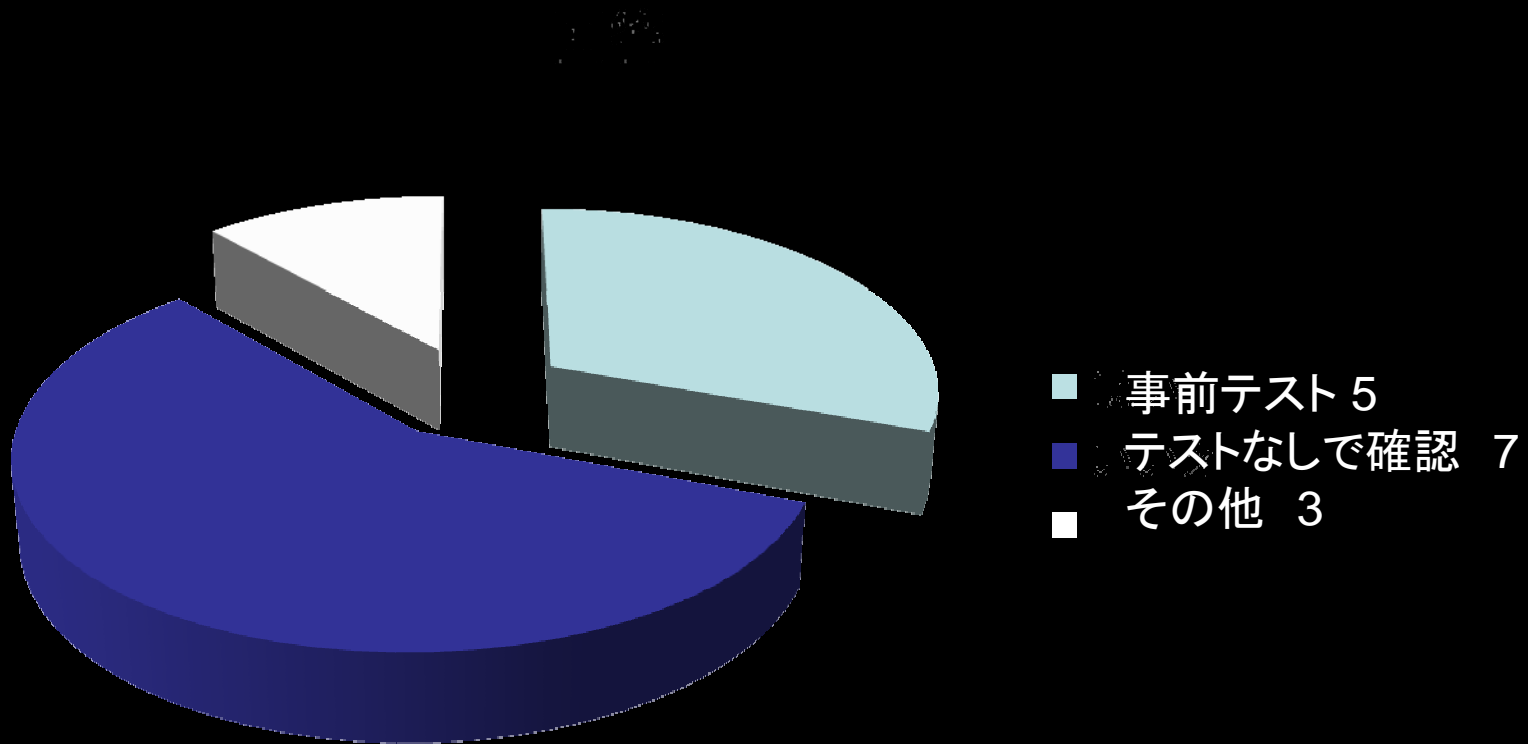


- はい 23
- いいえ 3
- どちらともいえない 0

利用施設間で利用可能であることを
確認して出力していますか



どのようにして確認を行っていますか

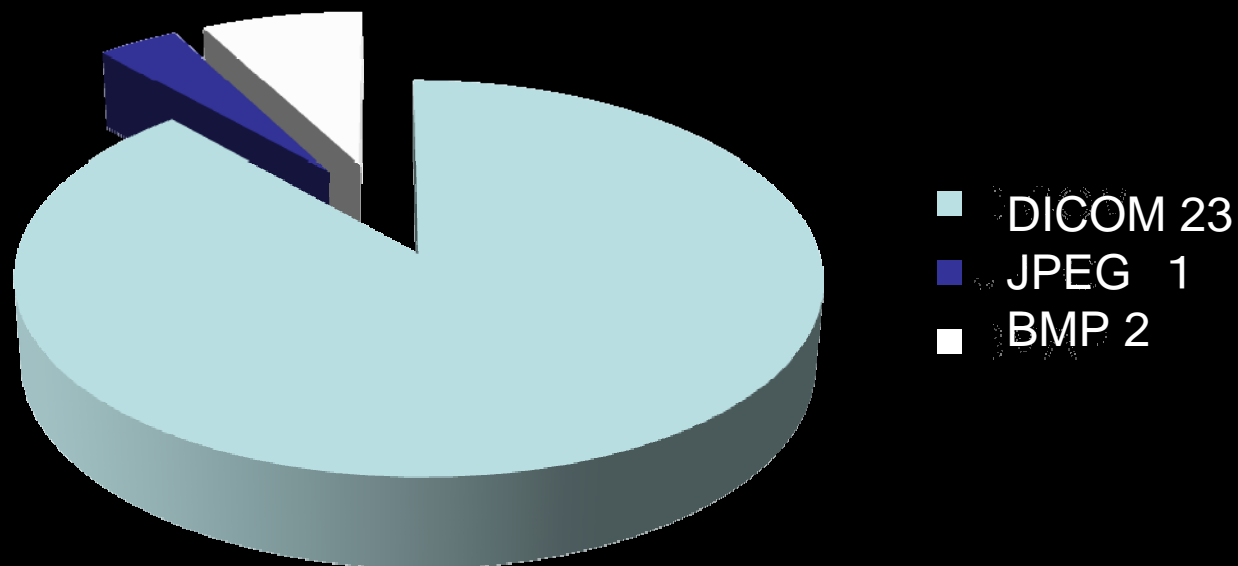


特定の医療圏のみでのやりとりかどうか

YES	8施設(29%)
NO(非特定)	20施設(71%)



提供画像のファイル形式は何ですか (複数選択可)

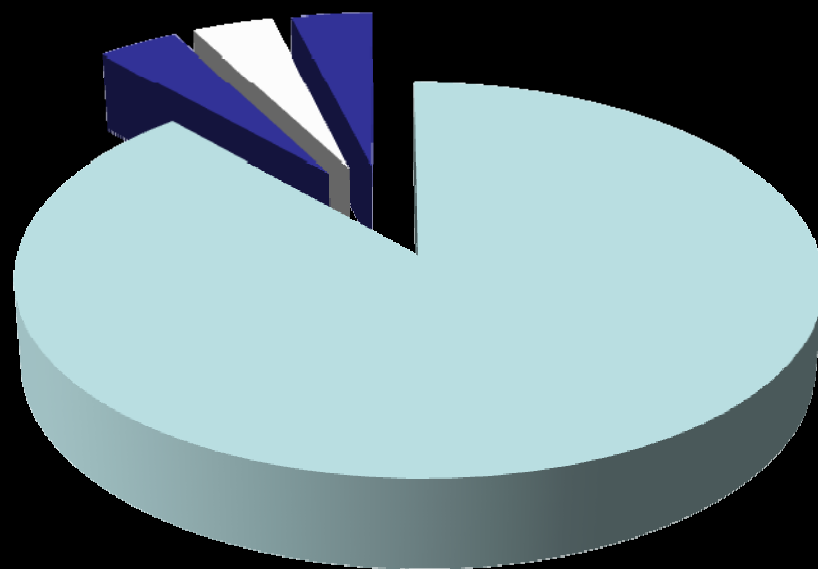


やり取りの形式は？

DICOM	82%
混在、非DICOM	18%

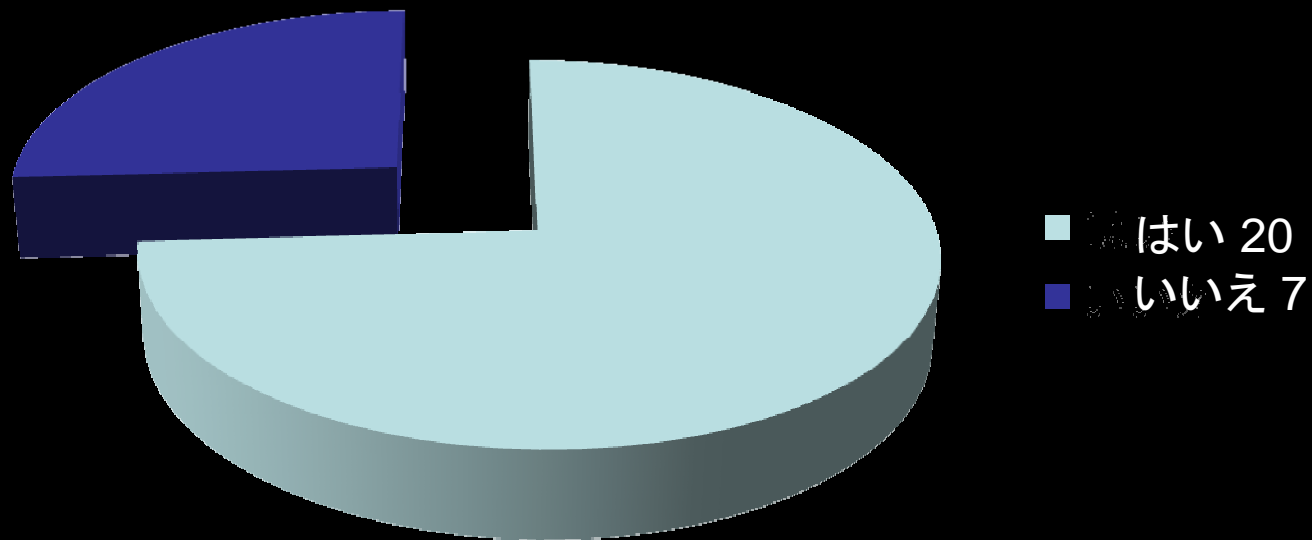


可搬媒体を作成する担当部署はどこですか

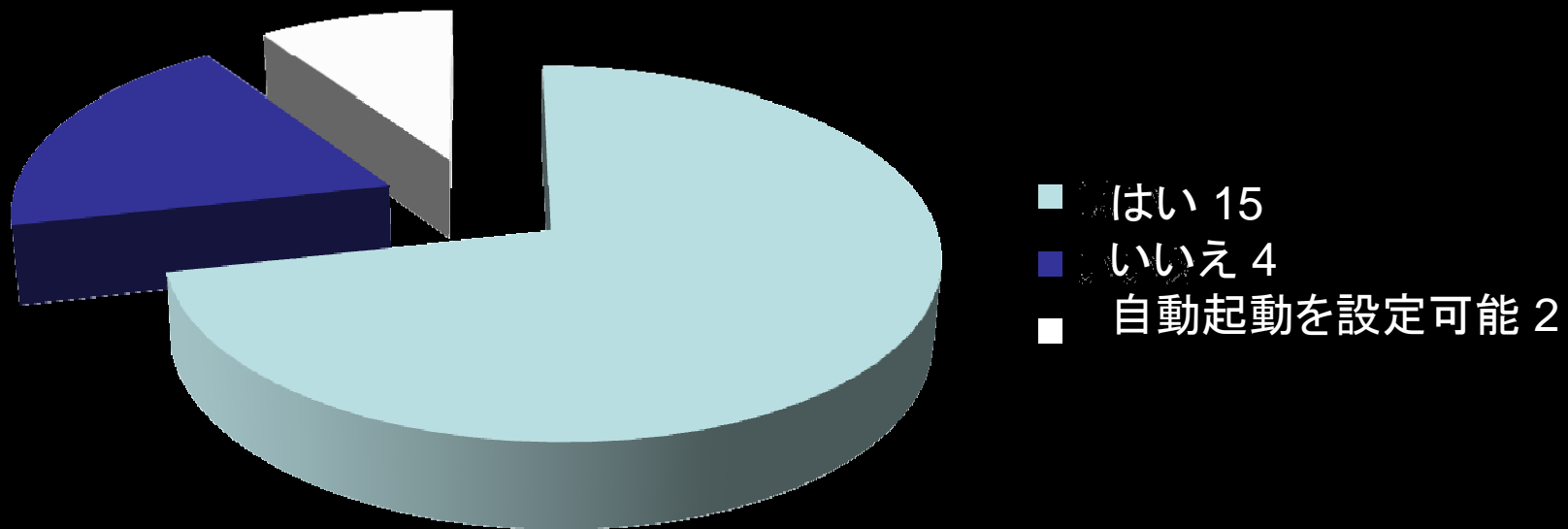


- 放射線(検査)部門 23
- 病診連携室
- 医療情報部
- 事務部門

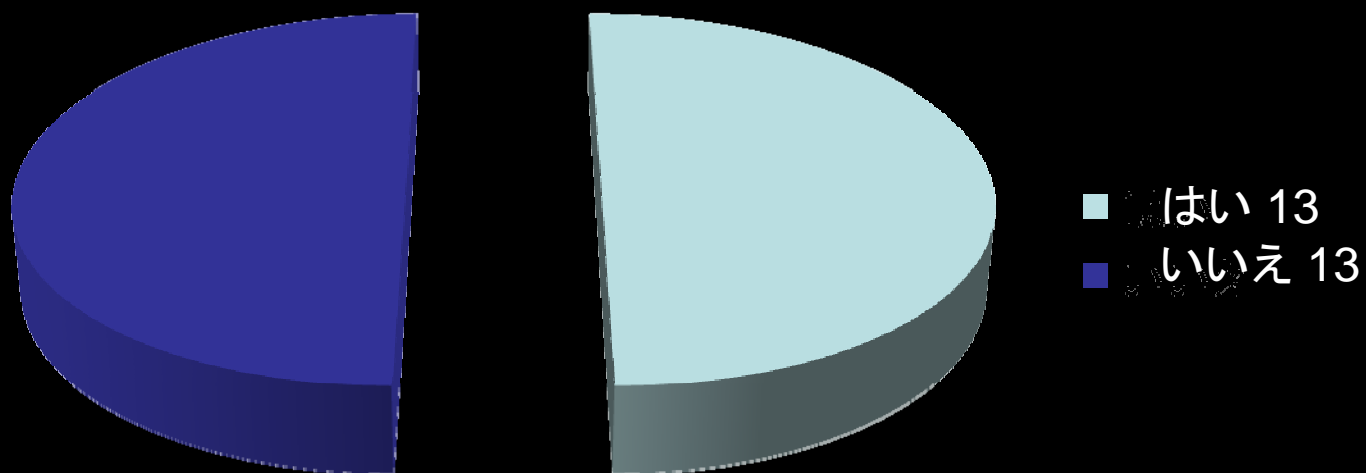
提供する可搬媒体には Viewer Softwareが入っていますか



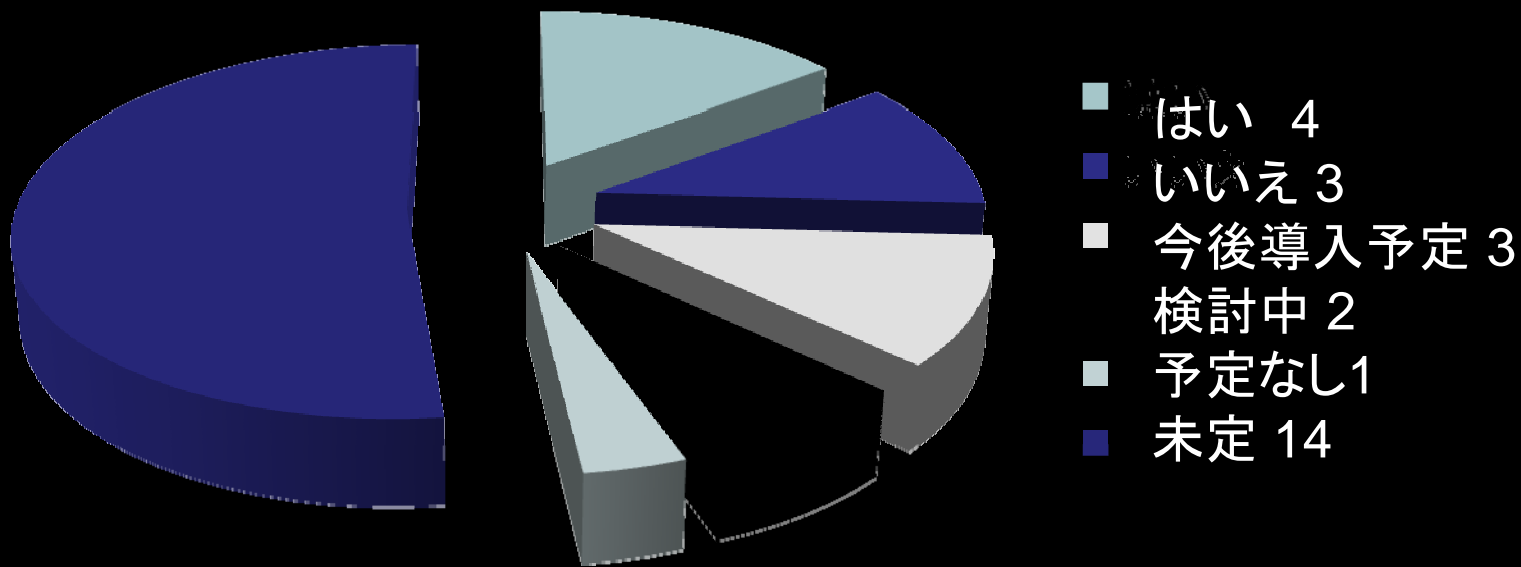
Viewer Softwareは自動起動しますか



IHEのPDI (Portable Data for Imaging) 統合プロファイルを知っていますか



IHEのPDI(Portable Data for Imaging) 統合プロフィールに対応している機器 (システム)を導入していますか



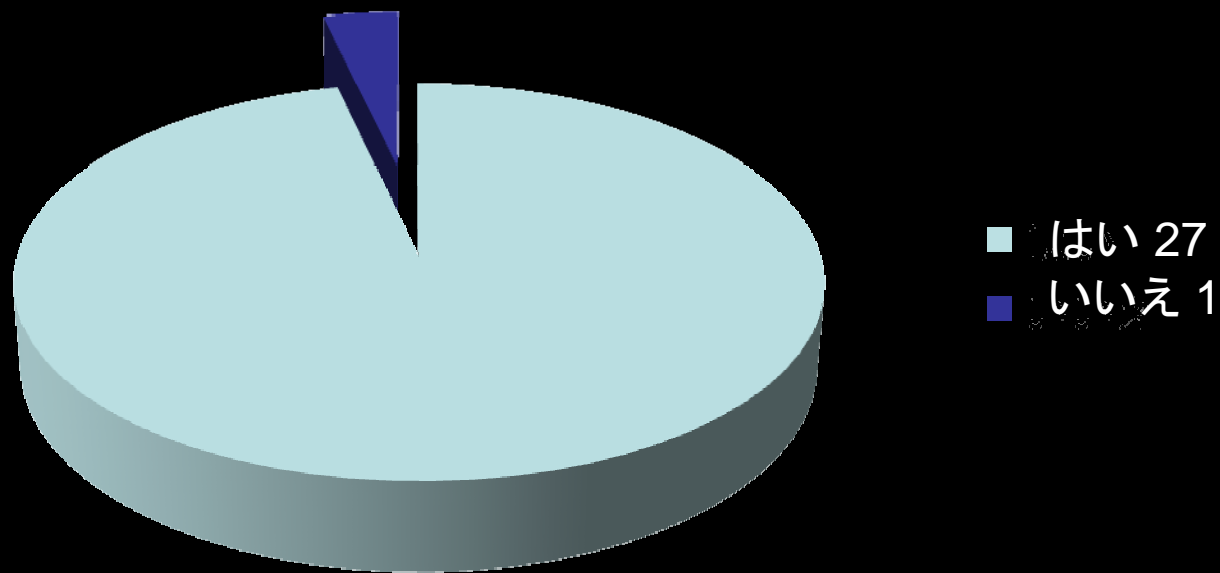
PDIについて

PDIを使用してやりとりしている	15%
導入検討中	14%

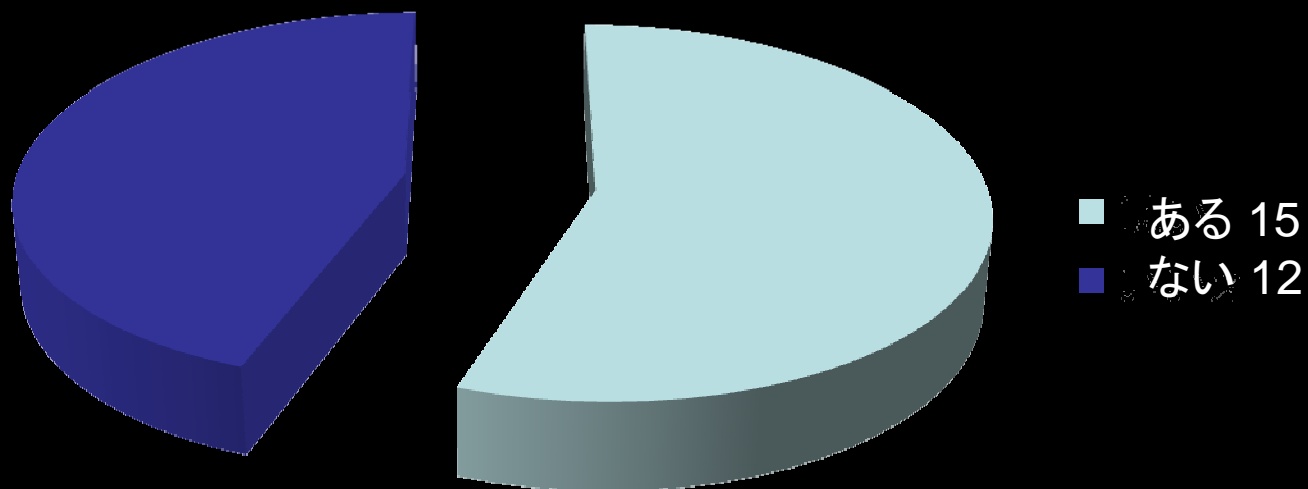
PDIを知っている 50%



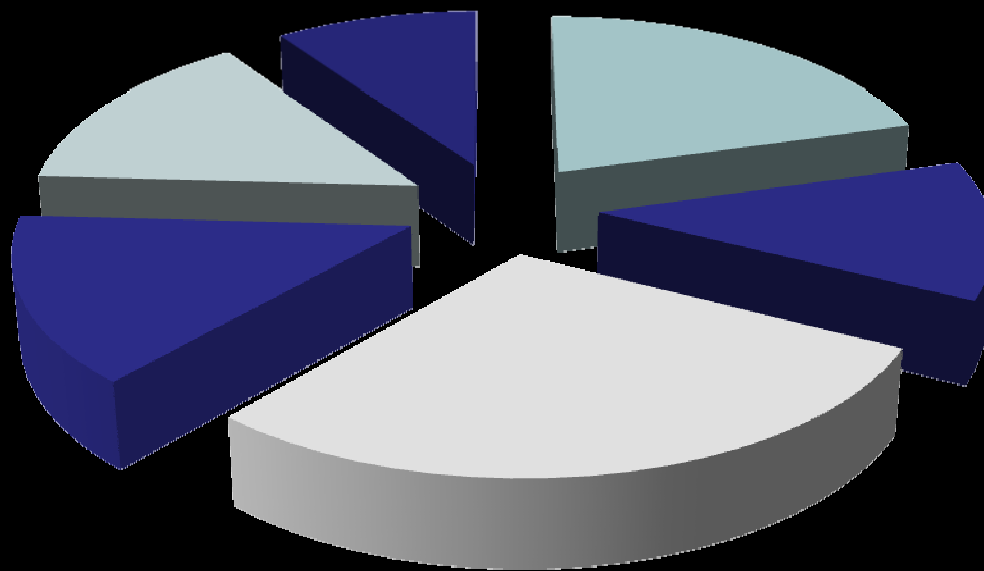
可搬媒体（CD-R, DVD, FD, その他）
による画像情報の電子的な提供を受
けたことがありますか



届いた可搬媒体 (CD-R, DVD, FD, その他) が読めなかったことはありますか



技術的な原因において、頻度の高い
順に番号をご記入下さい



- DICOM違反
- ファイル形式不明
- 圧縮されている
- ファイルが壊れている
- 不明
- その他

受け渡し上のトラブルについて

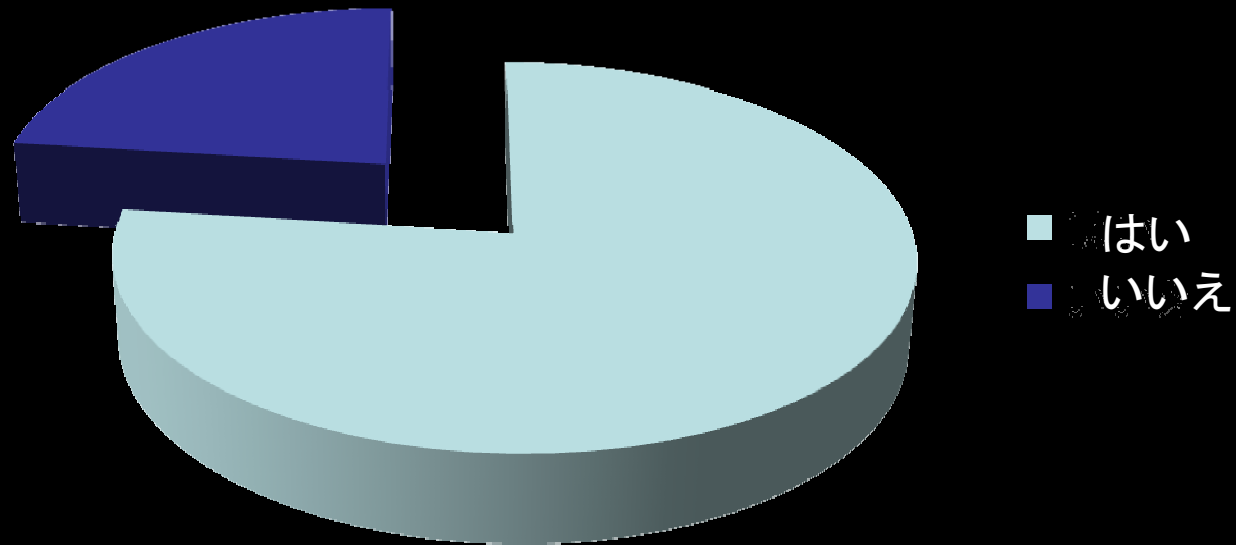
可搬媒体が読めない経験あり 54%

内訳

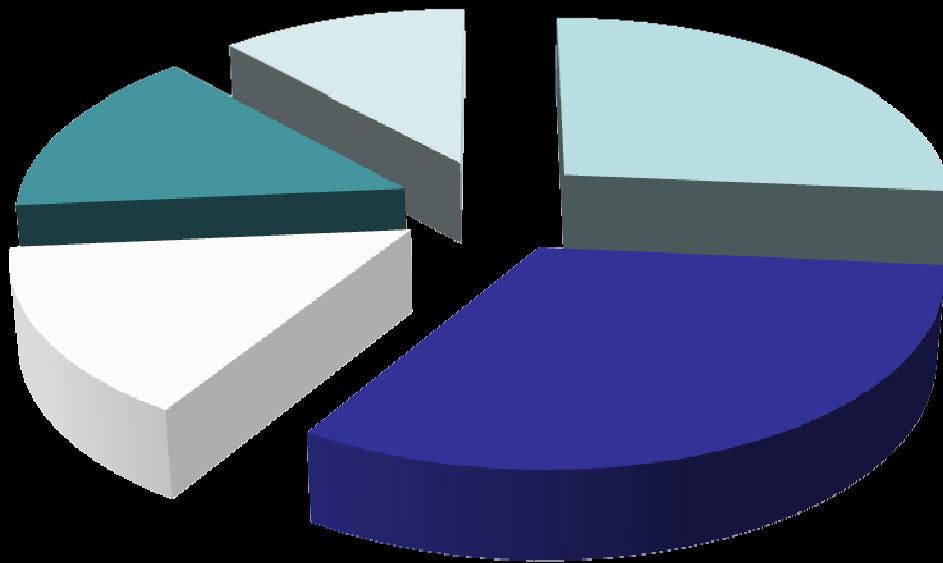
DICOM違反 23%

その他 ファイルが壊れている
圧縮されている
不明なファイル形式である。

提供された可搬媒体にはViewer
Softwareが入っていましたか
(およその比率でご回答下さい)

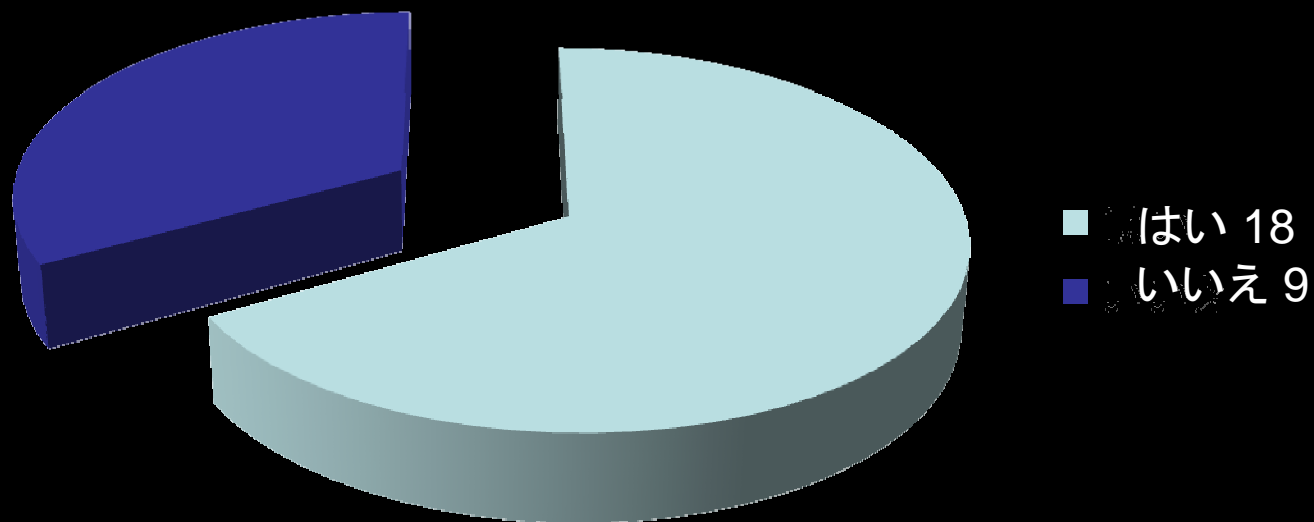


View Softwareについて、困る理由は何ですか (複数選択可)

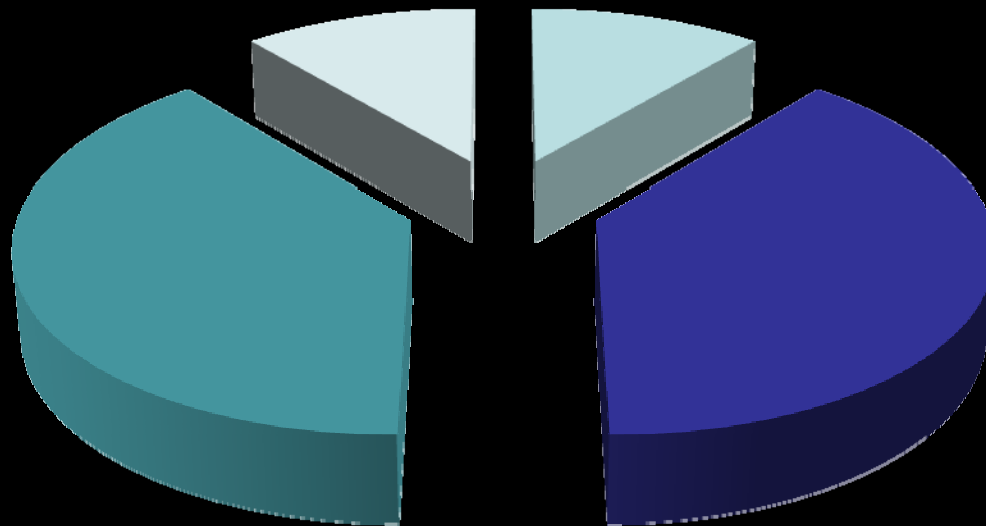


- セキュリティ上の問題
- 既存システムへの影響
- インストールされてしまった
- 複数個インストールされる
- 毎回インストーラ起動

貴施設では、端末での可搬媒体の利用制限を行っていますか

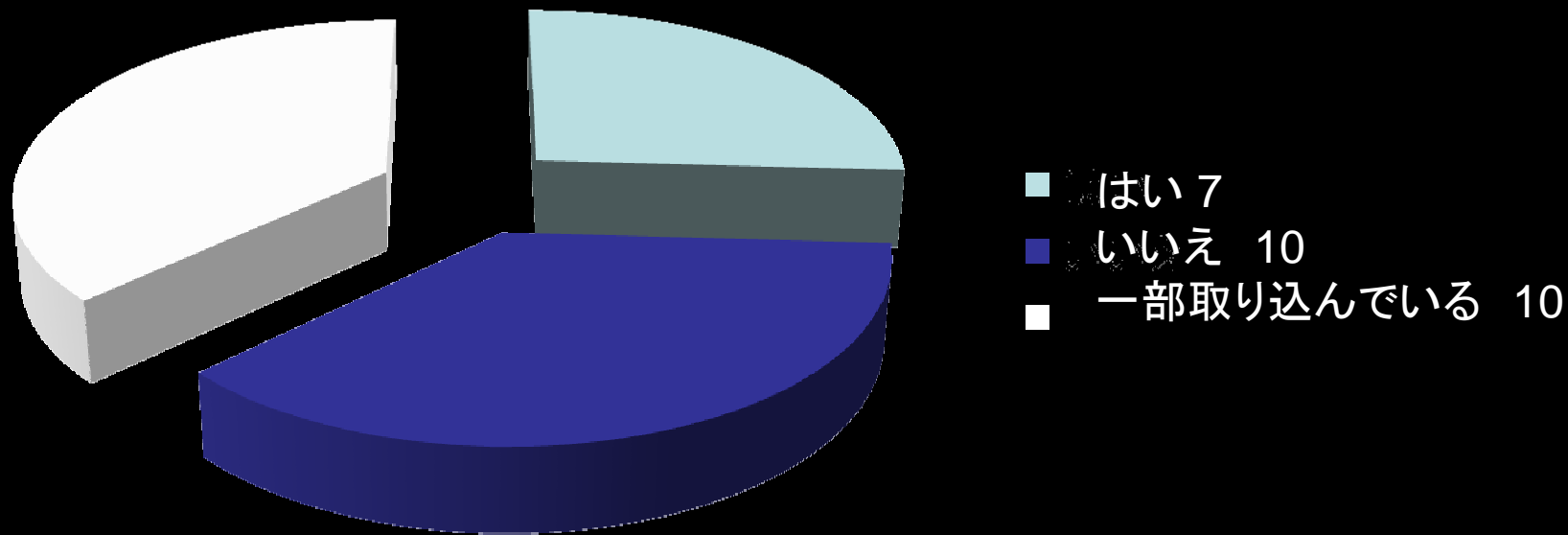


可搬媒体の利用制限を行っている場合、診察室に持ち込まれた画像情報をどのようにして見えていますか

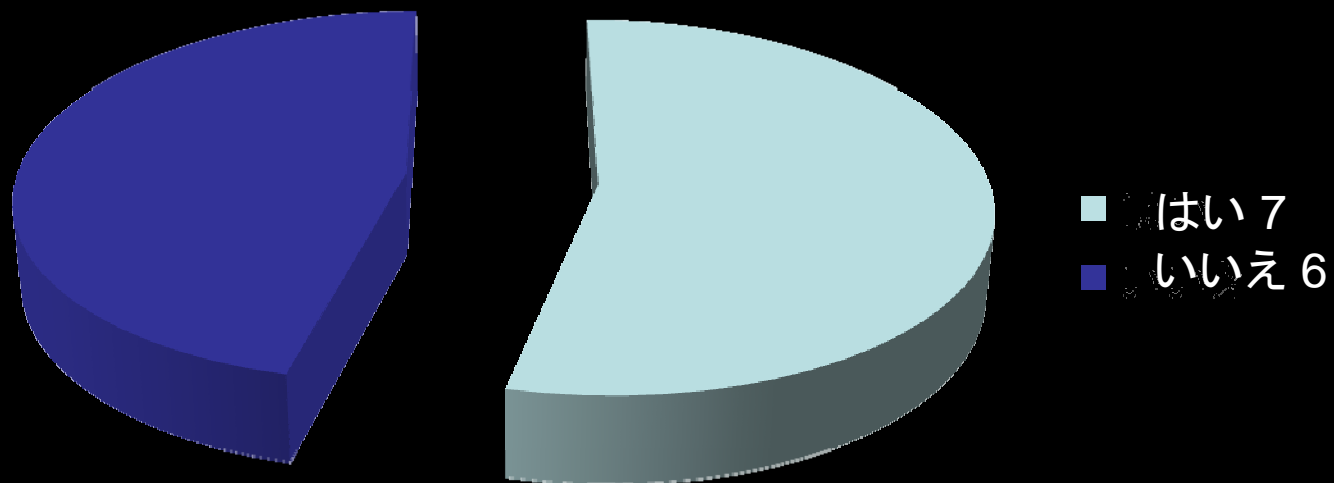


- 急いで取り込む
- オフラインPCを準備してある
- あきらめる
- 見える場所で見ると急いで取り込む
- その他

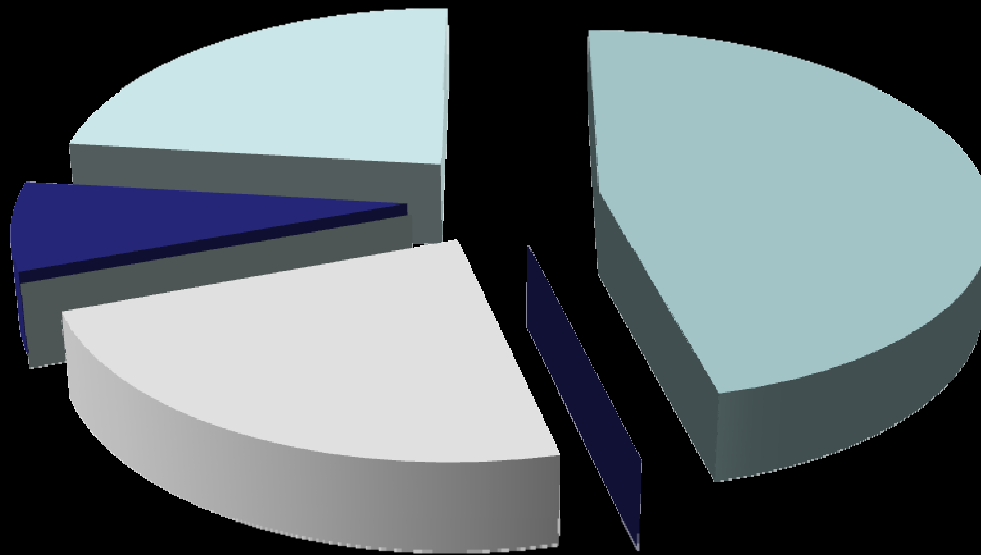
提供された画像情報を貴施設のシステムに取り込んでいますか



ウィルスに対して防止措置をされていますか

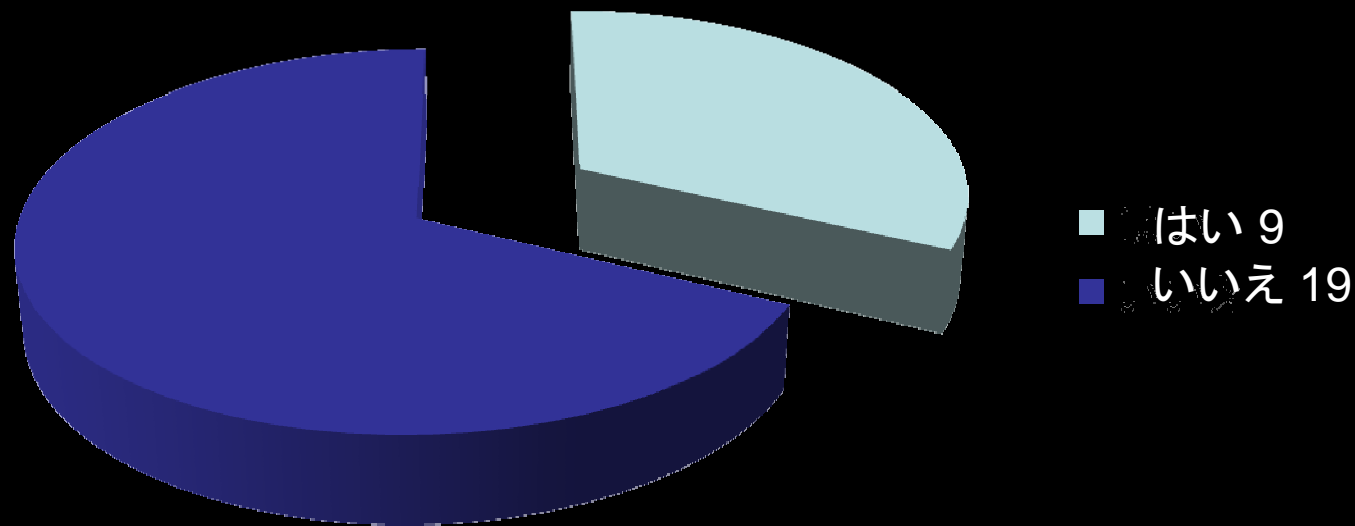


提供された可搬媒体の保管・保存はどこで行っていますか

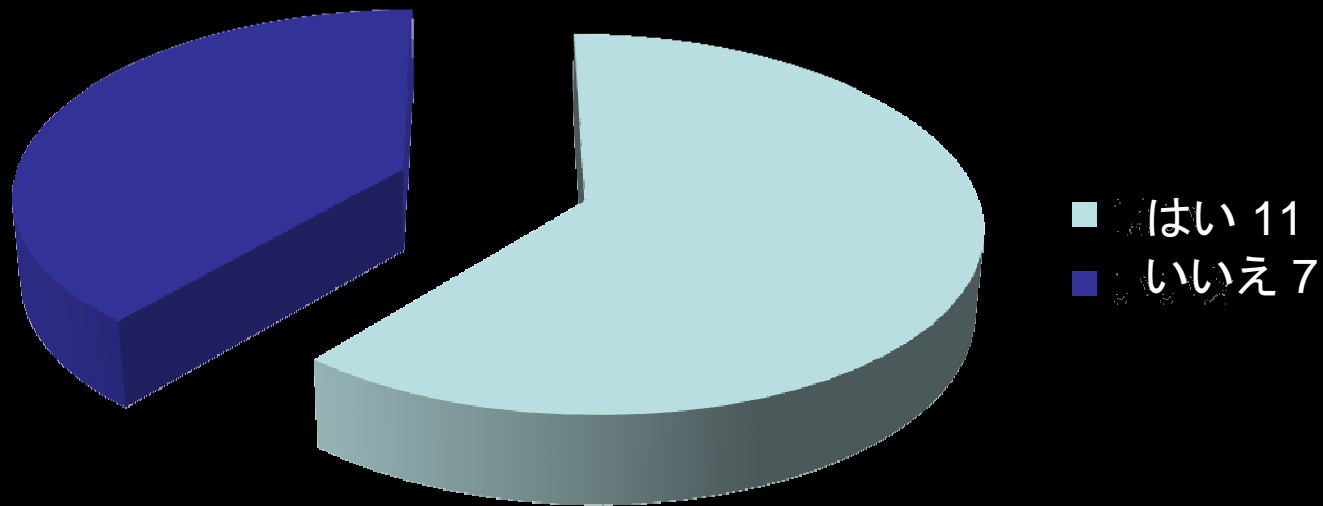


- 放射線部門 6
- 病診連携室 0
- 診療科 3
- 医療情報部 0
- 事務部門 0
- 医師個人 1
- 保管しない(返す) 3
-

可搬媒体を利用した医用画像の連携
において他施設からのクレームに対
する窓口を設けていますか)



これまでにクレームはありましたか



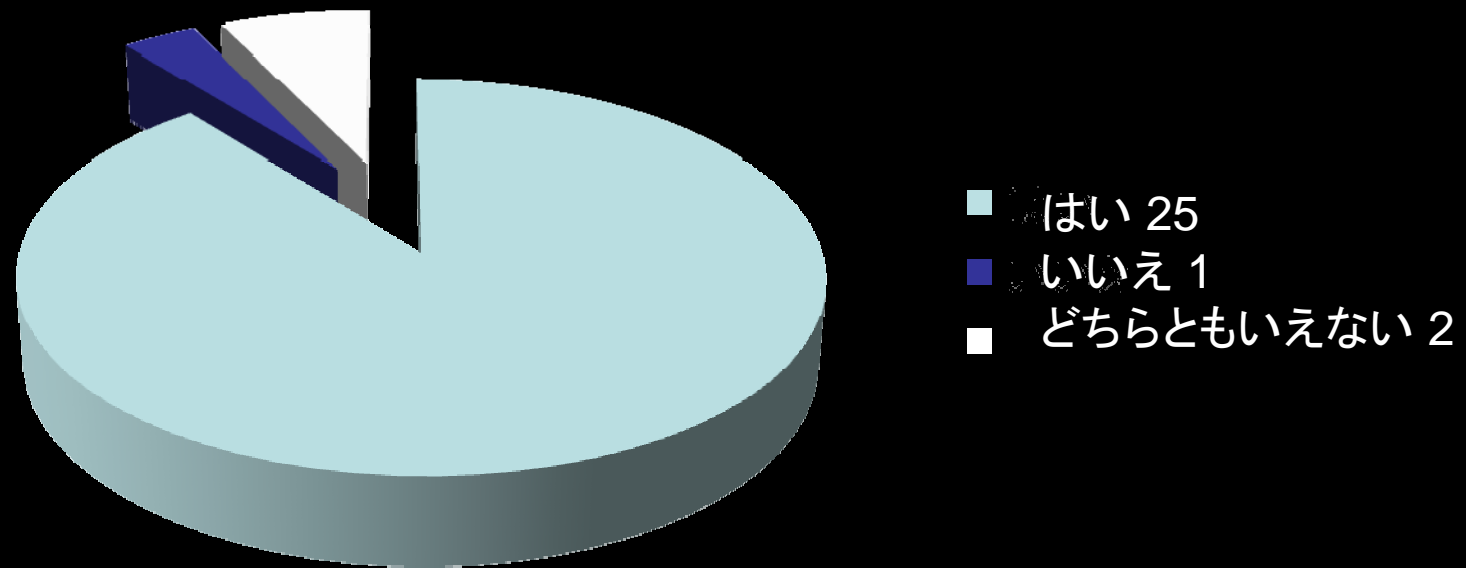
Virusチェックと受け渡し後の処理

自施設に取り込んでいる 61%

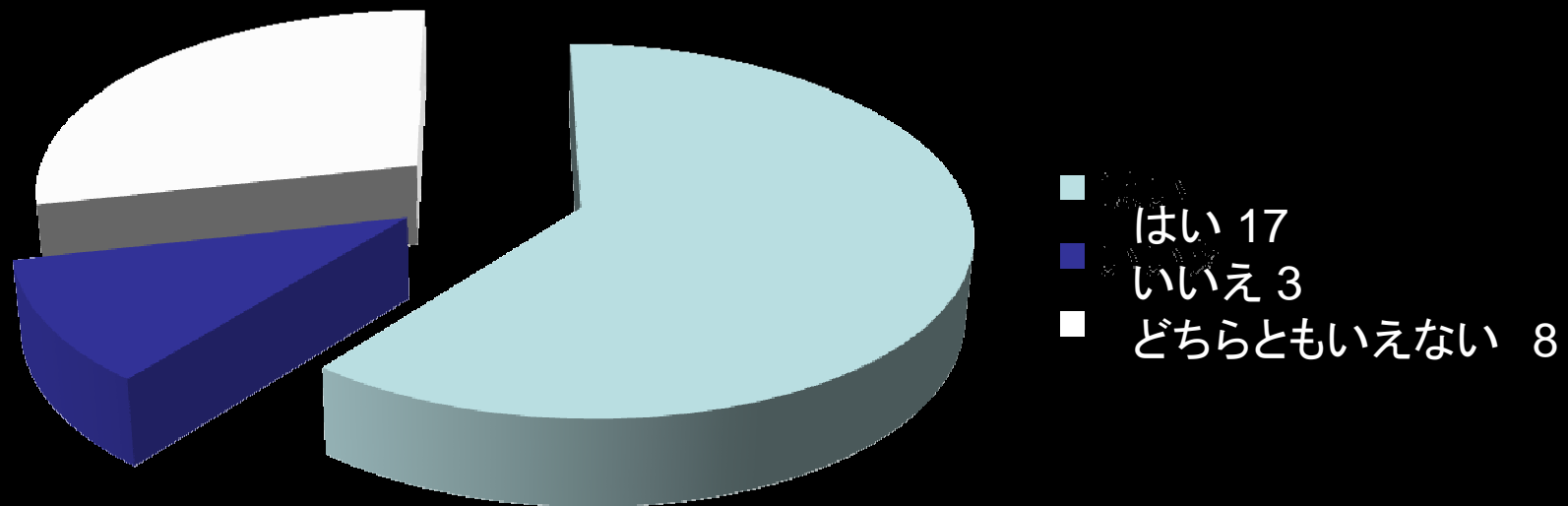
ウイルス防止措置をしている 53%



可搬媒体でのやりとりに標準化の必要性を感じますか



可搬媒体でのやりとりに法規制の必要性を感じますか



可搬媒体のやり取りに

標準化の必要を感じる 89%

法規制等の必要性を感じる 61%



まとめ

日本IHE協会では医療機関に対する可搬媒体による施設間連携のアンケートを行った。

回答のあった医療機関(28機関)のうち、93%の医療機関ですでにやり取りを行っているが、54%で問題のあるケースを経験しており、標準化の必要性を89%、法規制等の必要性を61%が感じていた。

今後、こういった医療機関の現状を踏まえた、安全かつ有効な画像情報提供の普及が望まれる。